

○一般社団法人 日本森林学会 2018年度第1回（通算第464回）理事会 議事録

日時：2018（平成30）年4月24日（火）13:00～17:00

場所：東京大学農学部 3号館 141会議室

開催者：中村太士

出席者：会長）中村太士，副会長）黒田慶子，田中浩，理事）堀靖人，竹中千里，後藤純一，福田健二，太田祐子，宮本麻子，佐藤宣子，大河内勇，船田 良，井出雄二，井上真理子，監事）白石則彦，主事）山川博美，大橋伸太，上村真由子，古川拓哉，岡本 隆，竹本太郎，橋本昌司，木村恵，岩永青史，宮本和樹，事務局）稲村崇子，編集部）町田庸子 [学会誌刊行センター]，オブザーバー）木暮甲吉 [林野庁]，網田克明 [全林試協]

議長：中村太士

審議事項：

本理事会で議論・決定された事項は以下の通りである。

1. 男女共同参画担当理事の担当名称の変更

2014年3月28日「男女共同参画関連企画100周年記念特別セッション」において「森林分野におけるダイバーシティ宣言」が採択され，本学会では「男女共同参画」からさらに進んで国籍，民族，宗教，年齢，社会的身分，障害の有無を問わず多様な主体の参画を推進する試みを行ってきた。研究者が自由意志で集う学会の場において，情報共有と発信をより進めるために，その目的に沿った名称変更が求められている。山本理事の代理として岩永主事から，「ダイバーシティ推進担当」への名称変更が提案され，提案の通り承認された。

2. 2017年度事業報告（案）

堀理事から提案され，防災学術連携体への参加，岐阜大学流域圏科学研究センターからの要請により共同利用・共同研究拠点への認定に関して文部科学省に要望書を提出したことに関する記載の不足を補ったうえで，2018年定時総会の承認を求めることになった。

3. 2018年定時総会，次回理事会の招集および総会後のシンポジウムの開催

堀理事から，2018年度定時総会および2018年度第2回理事会を5月29日，場所を日林協会館として招集すること，また同日13時30分から同会場で公開シンポジウム「林業遺産への期待と課題」を開催することが提案され，提案の通り承認された。

4. 第131回大会の大会運営委員長の委嘱

堀理事から，中部森林学会からの推薦により第131回大会運営委員長を竹中千里会員（名古屋大学）に委嘱することが提案され，提案の通り承認された。

5. 第132回大会の開催地区の決定

堀理事から，第442回理事会および2013年定時総会で定めたローテーションの通り，第132回学術大会の開催機関の推薦を関東森林学会に依頼することが提案され，提案の通り承認された。

6. 会員名簿の発行

本学会では会員名簿を4年に1回発行しており，本年度は会員名簿を発行する年度となっている。本年度の会員名簿の発行について，正会員には冊子体を作らずにPDFによる配布を行うこと，賛助

および機関会員には簡易印刷による冊子体の配布を行うことが、堀理事より提案され、提案の通り承認された。PDFによる名簿の配布方法などは今後検討することとなった。また、名簿にメールアドレスの掲載は必須にすべきとの意見が出された。

7. 理事会内規の改正

男女共同参画担当理事の担当名称を「ダイバーシティ推進」に変更することが承認されたことに基づき、理事会内規の理事担当名称を変更することが堀理事より提案され、提案の通り承認された。

8. 著作権内規の制定

現行の著作権に関わる規程の不備に関する指摘に基づき、2017年度第4回理事会において、著作権に関する規程を整理する必要があることで意見が一致した。堀理事から、著作権内規の制定について提案があった。著作者による保証について各刊行物の性格を踏まえ再度検討が必要である、過去に出版された刊行物に対しての扱いなどの意見が出され、次回以降に再度審議することとなった。

9. 選挙規則の改正

堀理事（選挙管理委員長）より、次期会長・副会長互選会議の開催日程について、現行の規定では日程調整が難しいため2月中の開催から3月末までの開催に変更する選挙規則の改正案が提案され、提案の通り2018年定時総会の承認を求めることとなった。

10. 2017年度決算（案）

竹中理事から提案があり、提案の通り2018年定時総会の承認を求めることになった。本部事業は190,967円赤字、大会事業は937,308円黒字、学会全体では746,341円黒字であること、本部事業は前年度決算では129万円赤字で、当年度予算では86万円赤字を見込んでいたことが説明された。

11. 2018年度予算の修正

2017年度第6回メール理事会で承認済みである2018年度予算について、2017年度決算を受けて、半期決算を期末決算に変更すること、科目「企画林業遺産事業費支出」を「企画費支出」に変更すること、退職給付引当資産取得支出を37万円に変更することが竹中理事より提案され、提案の通り承認された。また、大会開催引当資産取崩収入45万円を追加することが提案されたが、現段階で取り崩す必要はなく、将来的に具体的な活動が決まった時点で取り崩すことになった。企画費支出については最低限の予算を確保すべきとの意見が出され5万円とすることとなった。また、国際交流に関する予算がないことが指摘され、今後企画が上げれば検討することとなった。

12. 収入支出内規の修正

竹中理事より、旅費に関する支出内規について、交通費の支給条件、航空機の利用要件、前泊および後泊の要件、会員以外の者の交通費、宿泊費、日当、などについて明記することが提案され、一部文言の修正のうえ承認された。

13. 2017年度林業遺産の認定

佐藤理事から、昨年12月末の締切までに、2017年度林業遺産候補として12件（新規応募7件、継続審査5件）の推薦があり、一部は追加資料の提出を求めるなど、林業遺産選定委員会による審査経過が報告された。新たな林業遺産として8件が提案され、提案の通り承認された。認定されたの

は、「矢部村における木馬道と木場柵林業」「我が国初の森林鉄道「津軽森林鉄道」遺構群及び関連資料群」「旧帝室林野局木曾支局庁舎および収蔵資料」「日本近代砂防の祖・諸戸北郎博士の設計による溪間工事建造」「海部の樵木林業」「遠山森林鉄道の資料・遺構群」「進徳の森と中村弥六の関連資料群」および「北山林業」である。また、初めて東北地方から選ばれたこと、国有林以外の民有林やグループからの応募が増えたことが説明された。林業遺産についてさらに情報発信が必要であるなどの意見がだされた。

14. 風致・観光部門（仮称）の設置

小島理事の代理として宮本主事から、「観光・レクリエーション」分野の部門化について、学会企画で開催された「観光レクリエーション分野のあり方検討会」における議論の結果、風致部門に観光・レクリエーション分野を統合し風致・観光部門（仮称）の設置が提案され、プログラム編成委員会での審議においても反対意見がなかったことが報告された。また、「観光」と「レクリエーション」ではイメージが違う、「レクリエーション」という言葉はなくて良いのか、などの意見がだされた。今後、会員からの意見を踏まえ、次回理事会で審議することとなった。

15. 理事会議事録の承認

堀理事から、2017年度第4回理事会・連携学会長合同会議、2017年度第5回メール理事会、2017年度第6回メール理事会の議事録が提案され、提案の通り承認された。

報告事項：

1. 第129回大会（高知大学）の開催報告

後藤理事から、公開シンポジウム「林業大学校～その役割と目指すもの～」に当日入場者延べ人数439名の参加があり盛況であったこと、大会参加者は1,323名で、発表取り消しを除く発表件数は、部門別口頭発表198件、部門別ポスター発表442件、企画シンポジウムおよび公募セッションの口頭発表が180件、ポスター発表が38件であったこと、懇親会参加者は321名であったこと、保育室に12名を受け入れたことなどが報告された。

2. 総務担当からの報告

堀理事から、2017年度事業報告と決算について監査を受けたことが報告された。主な監事指摘事項について、国内研究機関アンケートの活用は次期執行部および国内研究機関連携担当で検討する、共催・後援・協賛等についてガイドラインの作成を検討したほうが良いなどの議論があった。

3. 選挙管理委員会からの報告

堀理事（選挙管理委員長）から、代議員選挙（平成29年10月15日告示）において、関東地区選出の黒川紘子会員（森林総合研究所）から代議員への就任を辞退するとの申し出があり、選挙管理委員会および会長・副会長で協議のうえ辞退の申し出を承認し、次点の土屋俊幸会員（東京農工大学）を繰り上げ当選としたこと、次期役員選挙を実施し、理事候補として、柿澤宏昭会員（北海道大学）、梶本卓也会員（森林総合研究所東北支所）、小島克己会員（東京大学）、田中浩会員（森林総合研究所）、福田健二会員（東京大学）、井鷲裕司会員（京都大学）、大住克博会員（鳥取大学）、黒田慶子会員（神戸大学）、伊藤哲会員（宮崎大学）、佐藤宣子会員（九州大学）、監事候補として、小池孝良会員（北海道大学）、堀靖人会員（森林総合研究所）が選出されたこと、会長・副会長候

補互選会議を開催し、会長候補として黒田慶子会員（神戸大学）、副会長候補として、田中浩会員（森林総合研究所）、小島克己会員（東京大学）が選出されたこと、が報告された。

4. 日林誌編集担当からの報告

丸山理事の代理として上村主事から、日林誌執筆要領について本文中で用いた注の記載先を実態に即したものの修正したこと、Web of Scienceへの収載についての対応状況、特集企画について「森林教育研究の展望」を予定していることが報告された。

5. JFR編集担当からの報告

福田理事から、JFRの23巻1号および2号を刊行したこと、2017年の投稿件数は214件で、2016年（335件）に比べ減少したが、アクセプト率は23%であり、2016年（15%）と比べて増加していること、2017年のIF（インパクトファクター）は0.82に上昇する予想であること、特集として「Fir species and forests（モミ属、及びその森林）」が12月号（22巻6号）に、「Radiocesium dynamics in forest ecosystems after the Fukushima Nuclear Power Plant accident: Experiences during the initial five years（福島原発事故後の森林生態系での放射性セシウム動態：初期5年間の経験）」が2月号（23巻1号）および4月号（23巻2号）に掲載されたこと、編集委員の交代があったこと、学会ウェブサイトに掲載されている投稿規定と執筆要領の整理中であること、が報告された。

6. 森林科学編集担当からの報告

太田理事から、編集委員の交代、第82号「特集：観光のグローバル化に向けた森林管理のあり方」を発行したこと、第83号は特集「未利用木材の発電利用は持続的たり得るか？（仮題）」を中心に編集作業中であること、第84号は特集「世界自然遺産候補、奄美・沖縄地方の森林生態系管理（仮題）」を中心に編集作業を行う予定であることが、報告された。

7. 広報担当からの報告

宮本理事から、メールマガジンの発行、アドレスリストの更新、ウェブサイトの更新状況、中等教育連携ページの公開について報告があった。

8. 表彰担当からの報告

正木理事の代理として堀理事から、第129回大会において学会各賞の授賞式および受賞者講演を行い、100名前後の参加があり盛況に執り行うことができたこと、学生ポスター賞は171件の応募のうち16名に授与したこと、また、昨年同様に大会期間中にポスター賞の表彰式を行い好評だったことが報告された。また、日本学術振興会賞は応募がなかったことが報告され、応募の推進を行うことや、理事会から推薦することも検討するなど意見がだされた。

9. 男女共同参画担当からの報告

山本理事の代理として岩永主事から、2017年12月11日および2018年3月23日に開催された男女共同参画学協会連絡会運営委員会に参加したこと、第129回大会で男女共同参画学協会連絡会の後援を受けて主催した企画「海外滞在と研究者家族」について17名の参加があったことが報告された。

10. 企画・林業遺産担当からの報告

佐藤理事から、2018年度林業遺産の選定スケジュール、次期（2018～2019年度）の林業遺産選定委員、第129回大会において、林業遺産をテーマに企画シンポジウムおよび公募セッションを開催

したことが報告された。また、第129回大会において、学会企画として「観光レクリエーション分野のあり方検討会」「男女共同参画ランチョンセミナー「海外滞在と研究者家族」」および「論文執筆や審査の経験を共有しようPart 3」を開催したことが報告された。また、黒田副会長から、第129回大会で学会企画「大学院進学とその後の進路選択—公立研究機関・行政機関への就職」を開催し、約30名の参加があったことなどが報告された。

11. 学協会連携・社会連携担当からの報告

黒田副会長から、丸善出版からの「森林学の百科事典」出版について、編集幹事会を開催したこと、各分野から約25名の編集委員を選出し委嘱したことが報告された。また、JSTフューチャーグリーンへの提案依頼への対応状況について報告があった。

12. 木材学会連携担当からの報告

船田理事から、森林学会と木材学会で学術大会に互いに招待したこと、木材学会の次大会は2019年3月に函館で予定されていることが報告された。また、JSPS科研費（国際情報発信強化）が採択され、英文誌「Journal of Wood Science」のオープンアクセス化を行うこと、和文誌「木材学会誌」を年6号から年4号体制に変更すること、などが報告された。

13. 国際交流担当からの報告

平田理事から、学会ウェブサイトの大会のお知らせの重要事項を英訳し公開したこと、ケニア森林学会とのMOU締結については進展がないこと、中国森林学会の100周年に祝電を送ったこと、が報告された。また、一昨年に締結した日中、日韓森林学会のMOUに基づき、どのような協力関係を進めるのか協議が必要であると報告され、数年に1回シンポジウムを開催してはどうかや、木材学会では韓国木材学会とMOUを結んでおり学術大会にお互いを招待していることなどの紹介があり、次期で検討することとなった。

14. プログラム編成担当からの報告

小島理事の代理として宮本主事から、第130回大会にむけたプログラム編成委員会委員の交代が報告された。

15. 中等教育連携推進担当からの報告

井上理事から、129回大会における第5回高校生ポスター発表の概要が報告された。発表件数は19校29件、発表会場に参加した高校生は14校64名で、発表当日にポスター会場で、最優秀賞2件、優秀賞3件、特別賞2件を表彰されたことが報告された。また、国土緑化推進機構「緑と水の森林ファン」の助成により高校生への旅費の補助やポスター集の印刷を行ったこと、大日本山林会の支援により、受賞校記念の楯、参加賞（コースター）や書籍を贈呈したこと、全国林業短期大学校連絡協議会の協力により学校紹介等のポスターを展示したことが報告された。

議事録作成者：堀靖人、山川博美